

二次送電網事業(フェーズB-1)



本事業により建設された二次変電所

[借款概要]

承諾額/実行額	9,499百万円 / 9,307百万円
借款契約調印	1985年8月
借款契約条件	金利4.25%、返済25年(据置7年)
貸付完了	1990年8月

[事業概要]

エクアドル全国の基幹系送電系統と地方配電網を結ぶ二次送電線及び二次変電所を建設することにより、地方への電力供給の改善を図るもの。

[評価結果]

本事業は、同国が1980年代初の二次送電網建設計画フェーズA(総延長690kmの送電設備)に続くフェーズBの第1期として実施されたものであり、総延長796kmの送電線及び65ヶ所の変電所が建設された。

本事業により、基幹系送電系統(グリッド)から切り離されて散在し、老朽化した小型ディーゼル等による発電に依存していた地方部に安定的に電力を供給することが可能となり、グリッドから二次送電線への送電電力量は1990年の約6,000GWhから事業完成翌年の1994年には約7,900GWhまで増加した。

本事業の完成後、対象地域において頻発していた事故停電等は大幅に減少し、乳製品製造業等の工業生産の増加にも寄与したと評価されている。

なお、電力セクター改革の一環として、1996年に本事業の実施機関であった国家電力庁が分割され、送電部門のうち基幹系統は送電会社1社、二次送電は地方電力会社19社が分担することとなった。各会社の技術力や体制に問題は見られず、送電設備の維持管理は適正に行われている。